

# 架け橋



JICA 海外協力隊 2021 年 1 次隊

ナミビア 小学校教育

ウサコス エロンゴサ小学校

川畑 舞



## 第 22 「北部・西部・南部の町の様子」号

### 1、北部 Opuwo (オプウオ) の町の様子

(2023 年 1 月発行)

今回は、ナミビア共和国の北部・西部・南部の町の様子についてお伝えします。

オプウオは、首都から約 7 時間 (733km) 離れた北西部にある町です。そこには、世界一美しいと言われる「ヒンバ族」の人々が今でも伝統的な生活を続けています。(ヒンバ族について詳しくは「ヒンバ族 世界一美しい理由」とご検索ください。) 町から離れたところには彼らの村があり、村の入り口には車のタイヤで目印が付けられていました。

ヒンバ族



道端でマンゴーを売る人々



道端で腕輪を売る人々



村の目印となるタイヤ



村 (ビレッジ)



放牧されているヤギ



## 2、西部 Swakopmund (スワコップムント) の町の様子

スワコップムントは、ヨーロッパ系の白人が多く住んでいる町です。私の任地ウサコスから約1時間50分(150km)離れたところにあります。この町は、ドイツの植民地時代に、主要拠点として大西洋に面して広がるナミブ砂漠の中につくられました。そのため、町にはドイツ風の建物が並び、町の周りには大西洋と砂漠が広がっています。毎年、多くの観光客が訪れるため、ドイツ人経営者による宿泊施設や博物館、レストランなどが豊富にあります。また、ショッピングモールや雑貨屋などもたくさんあるため、生活に必要なものはすべてここで揃います。さらに、中華料理や韓国料理、日本料理(お寿司)などのレストランもあり、アジアの食べ物が恋しくなった時には、ここを訪れます。ナミビア共和国と聞くと砂漠のイメージが強いと思いますが、スワコップムントから車で約30分(35km)南下したところにあるウォルビスベイには、オイスターファームがあり、大きくて新鮮な生牡蠣を1ピース7ナミビアドル(約60円)ほどで食べることができます。

<p data-bbox="343 772 598 801">ドイツ風の町並み</p> 	<p data-bbox="949 772 1300 801">クリスタルミュージアム</p> 
<p data-bbox="438 1196 502 1225">栈橋</p>	<p data-bbox="1061 1196 1189 1225">砂浜海岸</p>
	
<p data-bbox="438 1617 502 1646">砂漠</p>	<p data-bbox="1077 1617 1173 1646">お寿司</p>
	

### 3、南部 Mariental (マリエンタル) の町の様子

マリエンタルは、アフリカーンスの人々が多く住んでいる町です。教会へ行くとバザー（教会の資金調達を目的とした市場）が開かれていました。ブライ（BBQ）のお肉やパンケーキ（日本でいうクレープ）、自家製のジャム、カップケーキなどが売られており、アフリカーンスの人々の食生活がうかがわれました。伝統的なパンケーキは、シナモンシュガー味ですが、人々の中には、日本の手巻き寿司のように、ハムやチーズ、ジャムやクリームなどをパンケーキで巻いて食べる人もいます。

<p>バザー（市場）の様子</p> 	<p>ブライ（BBQ）のお肉</p> 
<p>パンケーキを作る様子</p> 	<p>シナモンシュガーのパンケーキ</p> 
<p>自家製のジャム</p> 	<p>カップケーキ</p> 

首都や私の住むウサコスと比べても、景観や住んでいる人、そこに根付く文化などが異なるため、それぞれの町の違いを知ることがとても面白いです。ナミビア共和国に来るまで、同国の中で全く異なる文化に触れるという機会がなかったので、日本へ帰国した時に、日本という国に対して自分がどのように感じるのか少し楽しみにしています。